

表現運動学習の考え方について

清田 高史 (千葉)	近藤寿美夫 (船橋)	窪田 崇之 (市川・浦安)
片山 裕二 (松戸)	佐藤 克博 (習志野)	酒井 雅彦 (八千代)

1 表現運動学習について

(1) 小学校学習指導要領から

表現運動系の領域として、低学年を「表現リズム遊び」、中・高学年を「表現運動」で構成。表現リズム遊びは、「表現遊び」、「リズム遊び」で内容を構成し、表現運動は、中学年を「表現」、「リズムダンス」で、高学年を「表現」、「フォークダンス」で内容を構成しています。

「小学校学習指導要領解説 体育編」では、「表現リズム遊び」「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」を次のように説明しています。

- 表現リズム遊びは、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりして楽しむことができる運動遊びである。
- 表現は、身近な生活などから題材を選んで表したいイメージや思いを表現するのが楽しい運動である。
- リズムダンスは、軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って仲間とかかわって踊るのが楽しい運動である。
- フォークダンスは、日本各地域の民謡と外国のフォークダンスで構成され、伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊るのが楽しい運動である。

(2) 表現運動って何だろう？

自分ではない何かに変身して踊ったり、心の中にある思いや考えをいろいろ工夫して全身を使って表したりすることがとても楽しい運動です。イメージしたことになりきって踊る楽しさ。イメージをふくらませ、動きをつくる楽しさ。友だちのよい動きを見つける楽しさ。この3つが毎時間味わえ、しかもお互いを認め合うことのできる運動です。

イメージしたことを体全体で表し、なりきることに楽しさがあります。



2 題材について

(1) 題材選びの流れ

実態の把握



題材を検討



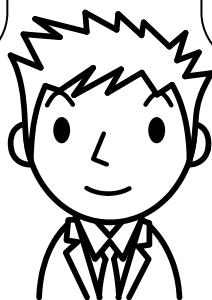
教師の『教えたこと』と子どもの『やりたいこと』がずれないように、うまく題材を選ぶことが大切です。題材を選ぶときには子どもの実態を把握した上で検討します。子どもの願いと教師の思いをかなえるために押さえておきたいポイントが4つあります。

- <題材を選ぶポイント>
- ポイントその1： 身近に体験しているものや学習などで知っているもの。
 - ポイントその2： 動きやすくイメージがふくらむもの。
 - ポイントその3： 感動やスリルを駆り立てられるもの。
 - ポイントその4： 作品への発展性があるもの。

中学年の子どもは、想像とスリルに富んだ題材や、おもしろい動きを含む題材を好む傾向にあります。

子どもの興味・関心が生かされるように、多様な捉え方や動きを含む題材を取り上げていきましょう。

高学年の子どもは、変化と起伏を好み、心情も重ねて表現することもできるようになってきます。したがって、動きの変化が子どもにとって捉えやすく、起伏のある表現ができる題材を取り上げ、より個性的な表現を大切にしていきましょう。



<中学年向けイメージカルタ>

- ジャングル探険
- 海中探険
- クッキングよういどん

など

<高学年向けイメージカルタ>

- 自然
- 私たちの地球

など

3 表現運動の学習の進め方について

(1) 学習の道すじ

	1	2	3	4	5	6	7	
0	オリエンテーション ○ 学習の進め方を知る。 ○ 学習の約束を決める。 ○ イメージバスケットを作る。 ○ イメージカルタを作る。	ダンスウォーミングアップ						発表会
↓ 4 5		ねらい① カルタからいろいろなイメージを広げて、思いつくままに踊って楽しむ。				ねらい② 一番表現したいイメージが強まるように、動きを工夫して踊って楽しむ。		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人組でイメージカルタをめくり、思いつくままに踊る。 ○ 気に入ったカルタを一枚選び、簡単に動きを工夫して踊る。 ○ 他の2人組と見せ合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 踊ってみたいイメージ別グループで一番表したいところがよくわかるように、動きを工夫する。 ○ グループの友だちともかかわり合いながら踊る。 ○ ペアグループと見せ合ってアドバイスし合う。 ○ アドバイスを生かしてさらに踊り込む。 			

(2) オリエンテーションについて

○ イメージバスケット作り

題材に関する個々のイメージを大きめの模造紙に自由に書き込み、クラスのイメージバスケットを作る。

□ イメージカルタ作り

イメージバスケットの中から、動きの特徴が捉えやすいものを選んで、カルタにしていく。



(3) ねらい①の学習の進め方

□ 2人組でイメージカルタをめくり、思いつくままに踊って楽しむ。



□ 気に入ったカルタを選び、簡単な動きの工夫をして踊る。

この時間、踊ったカルタの中から一番気に入ったカルタを1枚選び、特徴や様子がわかるように協調して踊ります。自分なりのイメージを大切に踊ることがポイントです。

- 2人組同士で見合って、お互いのよいところを見つけたりアドバイスし合ったりする。
- アドバイスを生かして踊る。

<ねらい① 指導のポイント>

- ・ カルタをめくっては踊り、めくっては踊る活動を繰り返しましょう。
- ・ どんな踊り方でもほめて自信をもたせましょう。
- ・ カルタをめくってもイメージがうまく広げられなかった場合は、次のカルタをめくるよように声をかけましょう。
- ・ 気持ちが途切れてしまわないように、なりきったまま移動するように声をかけましょう。
- ・ 2人組は毎時間変え、イメージに広がりをもたせましょう。
- ・ 思いついた動きをすぐ動きに表せるようにどんな踊り方でもよい雰囲気を作りましょう。

(4) イメージ別グループの作り方

Q ねらい①の最後の時間のまとめに、ねらい②で共に学習を進めていくイメージ別グループを作る。

- ・ ねらい①で踊ったイメージカルタの中で一番気に入ったものを選び、短冊に書く。
- ・ 短冊を元に、イメージごとにグループを作る。

友だちと相談しないで、自分の踊ってみたいイメージを短冊に書こう。

カルタにはないイメージでもいいよ。



(5) ねらい②の学習の進め方

- それぞれのイメージ別グループで一番表したいイメージが強まるように動きを工夫する。
 - ・ グループの人たちと相談しないでねらい①で気に入った自分のイメージや動きで踊る。
 - ・ 友だちの動きを真似して、繰り返して踊る。→イメージが広がり動きの財産が増える。
- 一番表したいところがよくわかるように、友だちとかかわり合いながら踊る。

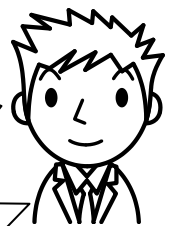
この動きがお気に入り!



終わりのポーズは・・・。

一番表したいところから作り、はじめと終わりを少しつけ足そう。

自分や友だちの動きをつなげたり、繰り返したりしてみよう。



<ねらい② 指導のポイント>

- ・ 自分や友だちのイメージや動きで踊る中で、グループで共通のイメージや動きを見つけられるように声をかけましょう。
- ・ ねらい①の動きを生かし、実際に動きながら、話し合うように声をかけましょう。
- ・ 寝転んだり、手をつないだりしたままでは動き小さくなってしまいますので、離れていても、つながっているつもりで動くより大きな動きが伝わることなどを指導しましょう。